

いこいの生活

第7号

平成19年7月
発行: 依田窪老人保健施設
広報編集委員会
〒386-0603
小県郡長和町古町 3365-5
TEL: 0268-68-0281
FAX: 0268-68-0283

ユニットケアについて

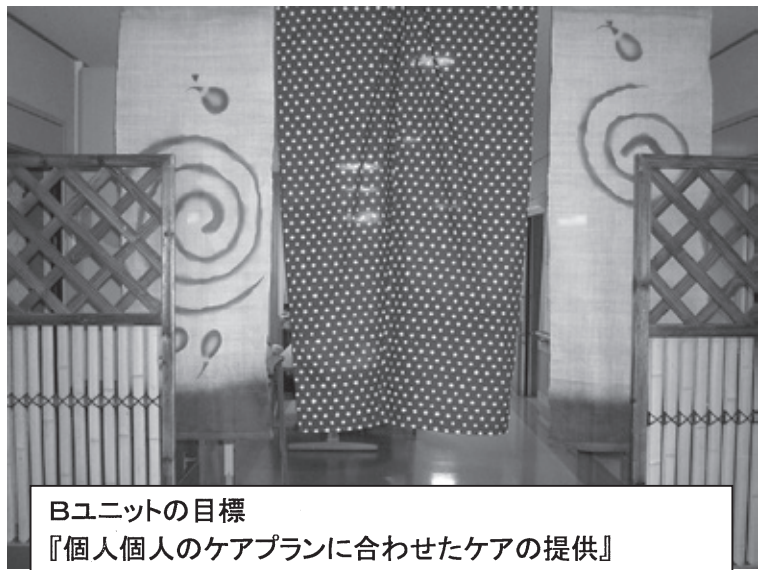
暑中お見舞い申し上げます。
第7号のいこいシシユがお手元に届く頃は、暑い頃とされます。さて、いこいでは、昨年9月より、個別ケアの充実を図るための手段として、ユニットケアを導入しました。まだまだ、十分なユニットケアとは言えませんが、今までの取組についてご紹介します。

大規模集団ケアから個別ケアへ

ユニットケアが始まり10ヶ月が経ちました。開始当初は、ご利用者やご家族に混乱を招く事も多くありましたし、職員も混乱の中にいたように思います。ユニットケアは、大規模集団ケアから、ご利用者を少人数のグループに分け、小集団で個別ケアを提供する形式です。いこいでは入所部門2ユニット、通所リハビリ部門1ユニットでケアを行っています。各ユニットで、利用者の生活リズムに添ったケアを目指し、それぞれ目標を定めて取り組んでいます。

関わりが深まりました

最近では、利用者の笑顔が多くなってきました。また、利用者から話しかけられる事も多くなりました。大規模集団ケアの時は、あまり見かけられなかった



Bユニットの目標
『個人個人のケアプランに合わせたケアの提供』
(写真: Bユニットの入口、暖簾で家庭的な雰囲気を出しています。)

光景で、ユニットケアになって良かったと思う一つです。小集団の個別ケアになったことにより、ご利用者と職員、さらにはご家族と職員に馴染みの関係ができ、今まで以上に、ご利用者一人ひとりの関わりが深くなり、何を求めているのか・どんな生活を送っていききたいかという事が、理解できるようになってきたのではないかと感じています。
よちよち歩きを始めたばかりのユニットケアですが、今後は、現在よりもさらに笑顔のあふれる「いこい」にし、利用される方に「居心地が良い。」「また利用したい。」「と言っていただけけるよう、これからもご利用者・ご家族・地域の方々との「いこいの場」になるように職員一同努力をしていきます。

歳時記

■ 中庭農園で野菜がすくすく



いこいの中庭には、約一坪ほどの農園があります。小さな農園ですが、毎年数種類の野菜が栽培されています。

その管理を主にしてくださるのが、通所リハビリを利用されている、伊藤祐男さんです。

暑い中、丹精込めて育ててくださった野菜は、お昼の食材となります。今年もトマトが色づき始めました。栽培してくださった伊藤さんに感謝し、皆さんでいただくのを楽しみにしています。

■ 癒しの生け花



施設の随所に心を癒してくれる花が生けられています。

「手が痛くてうまく生けられないけど、リハビリだと思って。」と云いながら生けてくださるのが、通所リハビリを利用されている、桜井かをるさんです。季節の花といっしょに道端の野草も巧みにアレンジされ、ご利用者をはじめ、職員の心を和ませてくれます。いこいへ来所の折は、玄関や廊下に生けられている花に目を傾けてみてはいかがでしょうか。



Aユニットの目標
『一人ひとりの関わりを大切に、その人らしい生活が送られるようなケアの提供』
(写真: Aユニット、花を飾るなど生活空間づくりに心がけています。)

委員会の紹介①
「入浴委員会」

入浴委員会では、いこいの今年のテーマである「こころふれ合う暖かなケア」を合言葉に、「人と人との支え合い」を大事にしながら活動を実施しています。

委員会は毎月開き、楽しみながら心身ともに暖まっていたいただき、リラククス、リフレッシュしていただけるよう、工夫を凝らした取り組みを実施しています。その一つ目は、環境整備です。殺風景な浴室や脱衣所の壁にシール等で模様を付けたたり、湯船には、りんごや柚子などを浮かべています。二つ目は、理学療法士や作業療法士と連携を図りながら、機械浴槽や個別浴槽、一般浴槽と個々の状態に合わせた入浴方法の提供や、入浴時にリハビリやマッサージを行いADL（日常生活動作）の維持・向上を目指しています。

いこいのお風呂は、「利用者」と職員が、正に裸のお付き合いを通して、こころのふれ合いを深める場所です。そこには、いつでも「笑顔の花」が咲いています。その花がさらに大輪となって、皆さんがよりいっそう元気になるよう、また、できるだけご利用者お一人、おひとりの要望に沿った入浴方法や、入浴時の事故防止対策の強化など、これからも、委員会を中心に職員一丸となって検討と実践を進め、ご利用者のさらなる満足や、安心を確保したサービスの提供を図って参ります。

(入浴委員 堀 貴広)



ほっと通信 いこいのひととき

「お出かけ ～スタートライン～」

(介護員 田村倫子)

5月30日、入所者の方と、買物へ出かけました。その方は、半身麻痺があり車椅子の生活をされています。「体は不自由でも、心まで不自由ではない。」この言葉の意味は、どういうことなのでしょう。

入所者の皆さんとドライブへ出かけることは実施していますが、入所者本意でのお出かけは初めてのチャレンジでした。どうやって車に乗ってもらおう？ お店の中でどう動こう？ どうしたらいいんだろう…。

答えは私の中にはなく、その方ご本人の中にありました。“普通で良い！” “体の不自由な部分を私たち職員が補えば良い！” 当り前のことだったのです。

入所者の皆さんにとって、心の自由とは何か？ 心の自由を得ていただくために、私たち職員はどうバックアップすれば良いのか？ その問いにたどり着き、やっとスタートラインに立ったような気がします。

もっと施設の外へ！ もっと地域の中へ！ もっともっと入所者のお一人、おひとりの心の中へ！

ふ
れ
あ
い

(4から6月までの出来事)

●桜のお花見(入所)

満開に咲き誇った桜の樹の下で、おやつを食べながらしばしば花見を満喫しました。



長和町の長久保グラウンドにて

●花桃見学(通所リハビリ)

上田市武石余里の花桃見学に行きました。そこは正に「桃源郷」、皆さんの元気をいただきました。



花桃の美しさにうっとり

●お昼に

「にぎり寿司と手打ちそば」を堪能5月11日行事を行いました。昼食には、ご利用者のリクエストで、にぎり寿司と打ちたてのそばを食べ、皆さんの美味しい顔を見ることができ、とても幸せでした。



そば打ち名人から指導を受けながら、職員は、おぼつかない手付きでそばを打ちました。

ひとくちメモ

◆「冬」という名がつきますが、れっきとした夏野菜「冬瓜」

今が旬の野菜で冬瓜(とうがん)があります。夏なのに冬瓜?と思う方もいると思いますが、冬場まで保存ができることから名前が付けられました。ビタミンCが豊富で身体の免疫力を高めてくれ、夏バテした身体にはうれしい食材です。いこいでは、『冬瓜の薄く煮』をメニューに取り入れています。透き通ったひすい色で清涼感があり、食欲のないときでも美味しく食べられます!

(管理栄養士 牧内祥広)



★編集後記★
とうとう夏がやってきました。

「夏はやっぱり海!」と言いたいところですが暑さが苦手な私にとっては「海より山!」というのが本音です。暑い所よりも涼しい山の方が好きです。キャンプ・バーベキューと、山でも楽しめる事はたくさんありますから・・・
皆さんは、海と山どちらがお好みですか?
(編集委員)